

平成 26 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 南 武 庫 之 荘 中 学 校

平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]教育目標である「1. 人権尊重の精神の育成 2. 個性を伸ばし、主体的な態度の育成3. 豊かな心、健康な体の育成

4. 確かな学力の育成」の具現化に向けて、具体的な取組として「1. 豊かな人権感覚の育成を図る。2. 規範意識の定着を図る。3. 生徒の自治活動の推進を図る。4. 基礎・基本の学力の定着を図る。5. 発展的な学力として、表現力の育成を図る。」の 5つを設定し、その達成に向けた

学校全体での取り組み状況を報告します。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
①小テスト成績や提出物、授業への取り組み方等を総合評価し、基礎基本の徹底、発表等の表現力向上の推進。 ②授業50分フル活用のため教師のチャイム始業の徹底を図る。校内研究授業の全学年全クラスで実施し、相互参観による研究協議の深化。教師のチャイム入室により、生徒のチャイム始業が当たり前となり学力の向上に繋がっている。 ③小中職員合同研修や行事等への相互参加、出前授業や入学前テストの実施。 ④コミュニケーショントレーニングを取り入れ、言語活動を充実させ確かな学力を育成する。	①低学力生徒への継続指導が難しく、今後の課題。 ②今後は小中の課題を究明し、さらなる連携に努める。 ③教師のチャイム入室により、生徒のチャイム始業が当たり前となり学力の向上に繋がっている。		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		2.6	3
取組とその成果	課題と改善策		
①「きらめき」を中心とした道徳授業の充実を図り、毎週教育相談委員会を実施。 ②毎週の生徒指導委員会の実施と情報への啓発活動の充実。 ③教育相談委員会でのスクールカウンセラーや訪問教師との綿密な情報交換と連携強化。毎学期の教育相談週間の設定と相談室活用の啓発。 ④3年間を見通した進路指導計画及び進路指導ノートの活用。	①道徳教育の深化のため教員個人の研修が課題である。 ②保護者との連携を密にし、きめ細かな指導を継続する。 ③ケースによりSC訪問指導員で対応しきれない現況があり、保護課等関係機関との連携を図っていく必要がある。 ④1年次からの目標を持たせた指導の必要性を感じる。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.8	3
取組とその成果	課題と改善策	
①食育教育を中心に基本的な生活習慣の確立、保健委員会での「健康管理」について積極的に進め意識の向上に努める。 ②家庭科や保健体育などの教科において「食生活」「体力づくり」への大切さを指導する。	①保健委員会の取組をより活発化する。 ②家庭とどれだけ「健康管理」「食生活」について連携がとれるかが課題である。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.8	3
取組とその成果	課題と改善策	
(1)関係機関に協力をいただき、生徒を対象にした安全に関する研修に取り組んでいる。 (2)2回避難訓練・消火訓練を実施するとともに、DVDを活用した防災教育を推進させ危機管理能力の向上を図る。 (3)BFC活動を推進する。	①朝、登校時の通学路の安全確保。 ②生徒一人ひとりの防災意識を高揚させる。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
①「あいさつ日本一」への登校時のあいさつ運動の徹底。 ②NIEを実施。記事をきっかけに保護者と意見交換を進め、連携を推進。 ③「学校だより」を地域諸団体や施設、3小学校へ配布し、学校啓発に努める。HPの随時更新。 ④チューリップ栽培による「命のリレー」事業の実施。	①校門のみならず、近隣まで足を運び安全指導やあいさつ運動に努めている。 ②評価時期が課題である。 ③オープンスクールへの保護者の参加が少なく、一工夫が必要。 ④若年教師が多く、意欲を持って取り組ませる。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.6
取組とその成果	課題と改善策		
教育目標5項目以外に生徒の努力目標として ①「あいさつ日本一」 ②「遅刻ゼロ」8時20分の予鈴で全員登校 ③校歌の歌える生徒づくりに努め、愛校心を育成する 全生徒と全教職員で積極的に取り組む。	①PTA・教職員の協力を得て、目標達成を図る。 ②校歌を歌うことに関しては、生徒会が積極的に協力している。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.6
取組とその成果	課題と改善策		
①コミュニケーショントレーニングを通じて、自分の考えを相手に伝える力や相手の考えを聞き取る力を育て、全体的な学力向上を図る。 ②特別活動等による発表の場を設け、「表現力」の育成を図る。 ③積極的な作文及び論文指導を図る。	①「表現力」の育成に向け、発表機会を増やす工夫が必要である。 ②作文や3年生の論文指導は行っているが、学校全体で「発表＝弁論」大会等を計画したい。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>・統一テストで市内上位になると聞き、取り組みの成果が出ていると思います。今の二年生にも期待します。</p>	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・いじめの話も聞こえてこず、男女が仲良くしていることがいいと思います。</p>	3.3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>・学校のお弁当の試食をしましたが、育ち盛りの世代をよく考えた弁当になっていると思いました。</p>	3.5
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・しっかり施錠されており、防災の意識は高いと思います。</p>	3.3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・何かあればすぐ電話があり、早く親としても対応できます。 ・朝の挨拶運動は立派です。 ・道で会ってもきちんと挨拶できています。 ・生徒が目標を持って、あきらめずに突き進んでいく精神力を鍛えれば嬉しいです。</p>	3.8
<p>■教育目標</p> <p>1・人間尊重の精神を育成する 2・個性を伸ばし、主体的な態度を育成する 3・豊かな心、健康な体を育成する 4・確かな学力を育成する</p> <p>4つの目標は素晴らしい目標であるが、学校全体として常日頃から意識して教育していると思います。以前の南武庫之荘中学校に比べて学校も生徒達も良くなった。今後も、目標倒れにならないように全体で、大変ですが取り組んでいって欲しい。</p>	3.3
<p>■研究テーマ</p> <p>本年度は研究テーマを「言語活動の充実による確かな学力の育成」-コミュニケーショントレーニングを通して-として、今までにない初めての取組をしている。この研究が実効ある取り組みとなることを願います。</p>	3.3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B